

北九州市立
文学館

友の会会報

第19号

2024年9月

大正ロマンを代表する画家、竹久夢二（1884～1934年）の生誕140年を記念した竹久夢二展が7月20日から9月23日まで北九州市立文学館で開かれました。おなじみの美人画を描いた肉筆画や版画などが並ぶ館内の一角には、かつて北九州市で活動した勉強会「夢二を語る会」のコーナーも設けられました。会の足跡を紹介します。（文責・伊藤和人）

八幡ゆかりの竹久夢二 「語る会」があった頃



栗田藤平さん
◎ 個人蔵



晩年の竹久夢二
(株) 港屋提供

竹久夢二は岡山県に生まれましたが、15歳の時に家業は廃業、一家は現在の八幡東区山王に移り住み、夢二は創業もない官営八幡製鐵所に勤務しました。しかし夢二は翌年、東京に家出。画家の道を歩み始めます。夢二が暮らした八幡・枝光地区の諏訪一丁目公園には、夢二の文学碑が1978年に建てられ、「夢二まつり」が毎年9月に開かれています。

会員の皆様の原稿を募集 好きな本や作家など、文学に関するものであれば内容は問いません。文学館や友の会に対する意見や提言もどうぞ。6000字程度で事務局までお送りください。

栗田さんは鞍手郡出身。「九州作家」同人で、夢二の八幡時代や、33歳〜34歳での長崎旅行などについて調査。著作も発表しています。例会は当初は栗田さんのほか、八幡時代の夢二を知る人を招いての講演が中心でしたが、98年に『夢二日記（1987年、筑摩書房）』の輪読を会員全員で始め、これが活動の中核になりました。

3児をもうけながら性格の不一致から離婚した妻、たまきとの葛藤や、「待てど暮らせど来ぬ人」の歌詞で知られる夢二の「宵待草」のモデルになった少女との秘めた恋、若くして亡くなった恋人、彦乃への思いなどが輪読の対象になりました。96年からは会報の表紙に夢二の版画やス

ケッチを紹介。栗田さんが美人画家にとどまらない、夢二の鋭い観察力を洒落た文章で紹介して会員をうならせました。例えば左上の「会報」No.62で紹介しているオーストリア・ウィーンでのカフェでのスケッチ（1932年）を次のように考察しています。

〈若い女性が背を見せてテーブルにヒジをつけている。……左側のテーブルで眼鏡の紳士が新聞か雑誌を読んでいる〉（女性は背後の男性を意識していると言っている。紳士も……美女をマークしていない筈がない。背景の2組のカップルはすでに抱き合ったり、眼元まで酔いで紅く染めてい

る）（男と女はすでに心理的なたかひを開始して、声をかけるキッカケを待っているだけだ。その緊張感が火花を発している。その心理戦を夢二は描いたのである）
以上は「夢二を語る会」会報や、夢二展の展示コーナー、リーフレット「夢二と北九州」を参考に、「語る会」元会員で文学館友の会会員の山口公和さんの回想をまとめました。「語る会」は主宰の栗田さんが83歳で亡くなった2010年で活動を終えます。山口さんは「栗田さんの夢二への純粹な愛着が会を支えていたが、栗田さんの死で会は柱を失った」と今も惜しみます。

「夢二を語る会」の会報全94号は、北九州市立文学館で読むことができます。会報に掲載された夢二の絵と栗田さんの解説は栗田さんの著書『人生派夢二（版画・デッサン）から』（1999年、夢二を語る会）、『おお、白銀のチロル 竹久夢二の米欧無銭旅行』（2008年、武蔵野書房）にも収められています。



『夢二を語る会』会報 No.62

外遊スケッチ 29

平成16年6月30日

2023年度 友の会 決算

[23年4月1日～24年3月31日]

(収入の部)		
項目	決算額(円)	備考
会費	354,000	会費2,000円×177件
特別企画展収入	964,803	特別企画展のグッズ販売手数料収入など
雑入	11	預金利息
前年度繰越金	1,121,680	
合計	2,440,494	
(支出の部)		
項目	決算額(円)	備考
入館料	95,360	定期券(480円×182人)87,360円 特別企画展(500円×16人)8,000円
特別企画展関連経費	872,355	特別企画展のグッズ販売委託料等
自主・共催事業関連経費	35,646	
会議費	2,470	お茶代
印刷費	99,220	友の会会報(年2回)印刷代
郵送料	135,062	切手、ハガキ、郵送料等
消耗品費等	48,522	コピー用紙、カラー用紙、文具代等
予備費	0	
合計	1,288,635	

(収入の部) 2,440,494円 - (支出の部) 1,288,635円 = 1,151,859円 [次年度繰越額]

2024年度 友の会 予算

[24年4月1日～25年3月31日]

(収入の部)		
項目	予算額(円)	備考
会費	400,000	2,000円×200人
特別企画展収入	500,000	特別企画展のグッズ販売手数料収入など
雑入	10	預金利息
前年度繰越金	1,151,859	
合計	2,051,869	
(支出の部)		
項目	予算額(円)	備考
入館料	146,000	定期券96,000円 特別企画展50,000円
特別企画展関連経費	500,000	特別企画展のグッズ販売委託料等
自主・共催事業関連経費	50,000	特別企画展自主事業など
会議費	10,000	役員会お茶代等
印刷費	120,000	友の会会報2回分
郵送料	200,000	会報等郵送料
消耗品費等	70,000	
予備費	955,869	
合計	2,051,869	

(収入の部) 2,051,869円 - (支出の部) 2,051,869円 = 0円

活動報告

副会長の江口さん 今年も『子ども向け文章教室』

友の会は、夏休みに本や言葉に親しんでもらうきっかけとなるように、作文や詩の書き方について学べる子ども向けの講座を7月27日と8月24日、文学館で開きました(今回が3度目の開催)。講師は、友の会副会長で、北九州市内の小学校・中学校で教鞭をとった経験をお持ちの江口恵子さん(九州女子大学特任教授)です。

今回は、募集告知が少し遅くなったため、応募者がいるかどうか心配しましたが、小学3年～5年の児童4名が参加してくれました。

一日目は、みなさん保護者と一緒に、緊張した面持ちでスタートしました。まずは、江口さんから「小さな親切」作文コンクールの説明があり、身の回りの親切について想像してもらいましたが、思い当たるところがなさそうな表情でした。そこで、「小さな親切」作文コンクールの入選作品を順番に朗読してみることにしました。

すると、子どもたちは、自分の身の周りにもたくさん親切があふれていることに気が付いたようでした。そ

の後は笑顔で活発に自分の意見を言えるようになり、子どもたちの変化がとても微笑ましく思えました。

「小さな親切をしたり、受けたりしたことがないと思うていましたが、話を聞いているうちに、こういう親切を受けたことがあると分かりました」「わたしもいろんな人に親切にして相手をうれしくしたり、笑顔になりたいです。いろんなことが分かったの、とても楽しかったです」といった声が子どもたちから寄せられました。



会員寄稿

『竹久夢二展』に寄せて

鳴見はるみ

中学生の頃、夢二の描いたおやかな女性像に心奪われて以来、「夢二愛」を育んできました。近隣で「夢二展」が催されるたび、お小遣いをやり繰りして足を運びました。令和の今なら、さしずめ「推し活」といったところでしょう。十代最後の秋に、岡山の夢二生家と美術館を訪れた時の感動は今も色あせない記憶です。

結婚してからも、夢二画集を離さず、時折開いては美しい夢二ワールドに浸ったものです。子育て中は、夢二の綴った童話集を娘と息子に読み聞かせ、あらためて夢二に魅了されました。



さて「竹久夢二展」が、わが街・北九州の文学館で7月20日から開かれました。万感の思いで初日の開会式に聴衆として参列。その後、小野恵学芸員の案内で参加者と展示室を巡りました。周知の作品から初めてお目にかかる作品、画業はもとより詩歌、児童文学、明るい色合いのお洒落な雑貨小物とまさに多彩で多才な夢二の仕事ぶりを丁寧に解説してください、歩を進めることに展示作品への味わいが深まりました。

鑑賞後には、夢二研究家の大平直輝氏の記念講話がありました。夢二には女性遍歴のイメージがあるものの、時代を観察し真摯に芸術に取り組み独学で表現スタイルを確立した「人間夢二」を熱く軽やかに語ってくださいました。夢二に恋した乙女も今や初老となりました。ですが、夢二を想うハートは「かわいい」ままです。

活動報告

満足度8割以上「ご意見も多数 友の会会員アンケート」

友の会は今年3月、会員の方々に会のあり方などを尋ねるアンケートを郵送で実施、175人中87人から回答をいただきました。うち友の会加入と各種の会員特典について満足度を聞いた質問への回答は表の通りです。各項目とも「満足」と「やや満足」をあわせた回答が80〜90%台に上りました。

自由意見欄にもたくさんの方の声をいただきました。友の会では自主企画として文学散歩や朗読会、子ども向けの

◆あなたの満足度を教えてください◆ (単位：%)

項目	①	②	③	④	⑤
友の会への入会	55	29	5	0	11
年間定期券	70	21	2	0	7
特別企画展招待券	74	18	3	0	5
図録引換券	69	18	6	0	7
作品集引換券	68	18	6	0	8
友の会会報	74	20	2	0	4
館報「文学の葉」	75	18	1	1	5
イベントご案内	72	21	2	0	5

(アンケートは今年3月、会員175人に郵送で実施。87人から回答を得た。①は「満足」、②は「やや満足」、③は「やや不満」、④は「不満」、⑤は「回答なし」。回答者の年齢は、40代2人、50代2人、60代22人、70代32人、80代以上29人)

作文教室などを開いてきましたが、これらも概ね好評でした。皆様のご意見を参考にこれからも継続、充実させていきたいと思えます。

作家の村田喜代子さんの講座や今川英子館長による講演を高く評価するご意見もありました。これらは友の会ではなく文学館による事業ですが、友の会会員に対しては優先的に参加できないか、文学館と話し合っていくことも一案でしょう。

会報については評価の一方で、「もっと字を太く」との声があり、できるだけ読みやすい紙面を目指していきます。俳句や短歌、川柳などの掲載を求める声もあり、検討していきたいと思えます。主なご意見は次の通りです。

●自主企画事業などについて(その他の自由意見も含む)

▼九州ゆかりの文学の朗読発表会などを▼オーディオブックが広く認知されてきたので朗読でさらに盛り上げては▼文学散歩を続けてほしい▼文学散歩は集合場所を文学館にして常設展を見学後に出発しては

▼子ども対象のイベントを増やして▼大人のための朗読会などを▼北九州市立大の文学部や地域創生学群と連携した文学館PRを▼作家の講演会を▼イベント参加者の感想を知りたい▼朗読やビデオバトル、おすすめの本持ち寄り発表会、読書会を

▼やさしい文章教室は続けて▼漱石や鷗外の手紙を読み解く講座を▼読み聞かせや文学散歩を続けて▼北九州ゆかりの作家の作品を読む会を▼森鷗外や松本清張の勉強会を▼大人向けの文章教室を▼小説の書き方講座を▼年齢に応じての明確なテーマが弱い

▼古文書教室を▼文学者の写真パネル展を▼文学散歩

はよい。やさしい文章教室に興味がある▼テレビなどで一般の方にイベントの広報を海外の古典小説についてもっと取り上げてほしい▼詩関係の行事をもっと増やして

▼文学館の盛り上げは意義のある事▼新しい視点に立った文学書籍の紹介を▼友の会会員同士が直接交流できるイベントがもっとあれば▼来年度の活動にもできるだけ参加したい▼年会費2000円はお得▼文学パスツアーを希望▼美術館分館との協賛企画などよかった。友の会ボランティアも良いアイデア

▼村田喜代子さんの講座は毎年企画して。まはら三桃さんの講座も▼若者から高齢者まであらゆる年代の会員が増えることを期待▼赤毛のアンシリーズ、プリンスエドワード島案内などもう一度企画して▼他の文学館の状況を知りたい▼林芙美子文学賞の記念トークが良かった▼地元出身の佐伯泰英さんをもっと取り上げて▼文学館への協賛のつもりで入会している▼北九州の文学に關した読書会などを▼友の会員が増えるようにPRして▼文学館での書籍販売の紹介を

●会報について

▼もっと大きくて大きな字で▼会報を編集者の自己紹介や似顔絵、一言コメントなどを▼毎回興味深い内容で楽しみ▼年2回の発行をさらに増やして▼会報は今まで通りでよい▼北九州市ゆかりの俳人の時節の句を加えては▼俳句や和歌の投稿を▼会員参加コーナーを増やして▼文学館の利用促進や会員増員につながる意見を述べられるコーナーを▼記事がコンパクトにまとめられて読みやすい読みごたえがある▼ゆかりの作家、作品の紹介を

▼北九州市の文学に関する歴史をシリーズで▼会報により文学館の動向がわかる▼郷土史の研究コーナー、サークルなどの発掘や新設を